

令和4年度 第2回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録

■日時：令和4年11月2日（水）10時00分～12時00分

■場所：フェリエ南草津5階 市民交流プラザ大会議室

■出席委員：肥塚座長、加藤副座長、岡井委員、阿部委員、田畑委員、神部委員、秦委員、松浦委員、木村 睦委員、伊庭委員、有村委員、笠井委員、木村 沙紀委員、小林委員、卓委員

■欠席委員：清家委員、東野委員、正木委員

■傍聴者：なし

■事務局：木村部長、岸本副部長、角副所長、竹中チーフディレクター、中野ディレクター、辻会計年度任用職員、布施担当課長（立命館大学地域連携課）、大藪課長補佐（立命館大学地域連携課）

1.開会

【事務局】

皆様、おはようございます。定刻になりましたので、只今より令和4年度第2回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきます。それでは始めに、総合政策部長の木村が御挨拶申し上げます。

【木村部長】

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。さて、新型コロナウイルス感染症の状況が不安定ではございますが、今年の秋は政府が経済文化活動を進めていくという方針ですので、草津市もこの10月からスポーツや芸術等様々なイベントを順次開催しております。今週も3年ぶりにまちあかりイベントということで、草津川跡地公園でLEDのイルミネーションをする予定です。よろしければ皆さんも楽しんでいただけたらと思います。UDCBKにおきましてもアフターコロナを見据えているような事業展開をしていきたいと思っておりますので、いろんな御意見をいただけますようお願い申し上げます。それでは、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

次に配布資料の確認をさせていただきます。本日の次第、資料1「UDCBK令和4（2022）年度実施事業（中間報告）」、資料2「UDCK（柏）、UDCO（大宮）視察報告」、資料3「産業界との連携強化について」、資料4「市（主に都市計画部）と

の連携強化ついて」および当懇話会の名簿を付けさせていただいております。また、参考資料としまして学習事業や社会実験等のチラシを付けさせていただいております。

それでは議事に入ります前に、事業所様の人事異動等により、新しく委員になられた方がおられますので紹介をさせていただきます。株式会社滋賀銀行、南草津支店長、正木秀行様です。正木様におかれましては、都合により今回の懇話会は欠席となっております。また、立命館大学スポーツ健康科学部教授の清家理様、京都橘大学副学長の東野輝夫様におかれましても、都合により欠席となっております。

それでは、次第に従いまして進めてまいりたいと思います。本日の議事の進行につきましては座長の肥塚様にお願いをしたいと思います。肥塚座長よろしく申し上げます。

2. 報告

【座長】

それではこれより議事に入らせていただきます。次第の「2. 報告」でございます。資料1「UDCBK令和4年度 実施事業中間報告」、資料2「UDCK（柏）、UDCO（大宮）視察報告」について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料の説明）

【座長】

ありがとうございました。委員の皆様から今の説明について、何か御意見や御質問等がございますでしょうか。

【A 委員】

視察報告のところをもう少し詳しく聞かせていただきたいのですが、UDCBKと他の2つの施設とを比較して、どういうところが参考になりましたか。逆にUDCBKが優れているところはありましたか。

【事務局】

他の2つが優れているところは設置目的がしっかりしているところだと思います。それがしっかりしているから事業が進められていると思っています。UDCBKでは中長期的な都市デザインの構築を目的に掲げております。昨年度策定された南草津ビジョンは南草津エリアで予定されている事業が書かれており、都市計画だけではなく様々なことが書かれているため、それを指針とするのは非常に難しいと思っています。構想やビジョンがしっかりと明記されていると事業は動きやすいと思います。

また、UDCO（大宮）の主な事業としてストリートマネジメントスクールというものがありますが、大宮の方は学ぶこともありながら市民や事業者の方が社会実験等までされて提案するといったところまで進められているということが非常に大きな違いであると思います。UDCBKでもアーバンデザインスクールを実施していますが、こちらは皆さんが講座を受講して学習するという体系になっています。そこから市の施策にたどり着きたいと思いますが、学習をしてそこで止まってしまっているというところがございます。

【A 委員】

まさにこの部分で言わせていただくと、最近アーバンデザインスクール等の学習事業の報告は参加者がどの程度集まったかという結果報告だけなので、そろそろこのスクールもどのような目的に向けて改善していくのか、アウトプットではなくアウトカムという部分で成果を見せていただきたいと思います。参加人数だけ見せられても、どう助言して良いか分かりません。大宮のスクールの目的は学習機会を提供するのではなくて、それをまちづくりに活かすと書いてありますよね。事業の評価というのはアウトプットとアウトカムを織り交ぜて、その事業がどうだったのかを示していくことだと思います。受講者がここで学んでどれだけの満足度を得たのか、何が役に立ったのか、あるいは単発でも参加可能とありますが、単発で参加した人とフルで参加した人ではどういう違いがあったのか、オンラインと対面ではどういった違いがあったのか、そういった情報を合わせて提示していただくと、今後の進め方、スクールの在り方としてどうしたら良いか、いろんな方々からの経験や具体的なアドバイスが聞けると思うのです。

それから、まちづくりに活かすというところで、ここで学んだ人たちが学んだ成果を活かしてどう行動しているのか、最終的にはそこが一番アウトカムなわけです。学んで終わってしまうのは、この事業の本来の目的に合っているものなのかどうか、そういう意味では参加した人に対してこれで終わるのではなくて、パブリックスペースの活用についてワークショップを開くなどして市民の声として提案してもらって学んだことを生かして、それを行政にも参考にしてもらいたいですし、そういったフォローアップをするとまた違った成果が見られるのではないかと思いますので、アンケートを取ったりしてデータ等で示していただきたいです。

【座長】

今後UDCBKが本来の目的に向かってどう事業を位置づけて、どう事業を進めていくのか、アウトプットからアウトカムへの情報提供をどうするのか、いくつもの点で御意見を頂きありがとうございます。ぜひ参考にしたいと思います。

【事務局】

今頂きましたお話ですが、アーバンデザインセンターとしても、その点につきましてはかなり課題であると思っているところです。今年度は学習事業という形で事業計画を立てていますが、次年度につきましては今おっしゃっていただいた内容のことを考えていたところでございます。次回の懇話会で御紹介できると思いますが、次年度のスクール事業について、前期は今まで通り講座で学び、後期はワークショップをして色々な意見を頂いて、それを市の施策に反映するため関係部局へ成果報告をさせていただきたいと思っております。少しずつ成果というところに重点を置いて市の施策につなげていきたいと考えています。

【B 委員】

補足ですが、今年度もスクールに参加していただいた方々に講座とワークショップの連続性についてお話を伺って社会実験準備事業で試行的に行っていて、それがどういう意味があったかということ踏まえて行動をしています。問題は最後の施策の部分で、総合政策部に属するUDCBKで色々話し合っても実際に都市計画部につながっていないところで、そのあたりを次年度以降つなげていくことが課題だと思います。

【C 委員】

先ほどの御意見に私も同感で、スクールでアウトプットができればいいと思います。以前スクールに参加した後に参加者と先生とディスカッションする機会があったのですが、それがとても良かったと思っています。次年度は前期に講座、後期にワークショップと分けてするようお願いがありましたが、私はその場ですぐディスカッションする即時性がある方がいいと思います。前期後期と分けてしまうと内容を忘れてしまいますし、前期に参加した方が後期も参加できるとは限らないので、できれば講座のすぐ後に少しでもアウトプットする方が良いと思いました。

大宮のストリートマネジメントスクールは実証実験まで行うということで興味があるのですが、具体的にはどのような事例があるのでしょうか。

【事務局】

大宮のストリートマネジメントスクールはまず参加者を募集して自分たちでやりたいテーマを何個か挙げてもらいます。そのテーマに沿った学習をされた後に実証実験をしていきますが、そこには専属でデザインコーディネーターという方がおられてアドバイスがもらえたりします。事例をあげますと、まちの壁面に絵を描いて賑わいを創出したり、まちの空いているところにベンチを置いて催しをしたり、アーケード下で食のイベントを開催したり、といったところです。実際に参加者だけで実施するのは大変で、コーディネーターが付きっきりでウェブ会議等も含め、結構な労力を使い進められたということでした。

【C 委員】

参加者は無料で参加できるのですか。

【事務局】

受講料がかかるそうです。

【C 委員】

やる気がある方を集めるにはお金がかかるかもしれませんね。

【D 委員】

まず大宮での講座の募集方法についてお伺いしたいのと、それが市の施策に反映されているのかという点を聞きたいです。UDCBKも社会実験準備事業をやっていますが、実際に市の施策に反映されたものはあまりないとお聞きしました。大宮では反映させるための仕組み等はあるのでしょうか。

【事務局】

募集方法や広報については聞いておりませんが、実証実験までできるという話を聞いて他市からも応募してこられるとおっしゃっていました。例えば草津市でもこういうことができるという話があれば近隣他市から応募があるかもしれません。また、市の施策に反映されるかという点ですが、大宮市の職員が定例会議に参加されて施策への反映をスムーズにできるように工夫はされているようです。市の施策だけでなく商店街の事業として最終的に持っていくということで、市が独自でやるのは大変ですが、商店街で賑わい創出等ができれば施策としては進みやすいと思います。

【D 委員】

市の施策というよりは、まちの商店街等で実現していく方が、面白味があって応募してこられるのかなということを感じました。

【E 委員】

社会実験準備事業は地方創生の補助金を活用していると聞いています。市民が参加してまとまった人たちがグループになってやっていくということもできるかと思います。うちの大学も社会実験準備事業に参加しましたが、大学の場合、それを引き継いで継続的に行っていくのは難しい部分もあります。提案主体として、大学の他に市民提案の枠もあるとよいのではないのでしょうか。

【事務局】

社会実験準備事業もやり方は様々で、実際に市民の皆様にワークショップに参加していただいている事例もあります。市民の方々も交えて進めていくやり方は非常に重要だと思いますので、来年の社会実験準備事業はそういった御意見も参考にしながら考えていきたいと思っております。

【F 委員】

UDCは中長期的な観点でできたもので、社会実験は短期に成果を求めていくものなので、中長期的な考えで行くのか近々の課題に取り組むのか、方向性を示した方がいいと思います。近々の課題で言うと例えば駅前交通に関しては既に提案があると思うのですが、UDCBKはそれに関わることができなかったということですよね。市のスピード感と同じくらいにやっついていかないと施策には反映できないのではないのでしょうか。

【事務局】

先ほど御説明させていただきました南草津駅周辺の交通対策事業について、市の都市計画部から駅前ロータリーの改修の件で話はありましたが、おっしゃっていただいたように短期の件に関して今からUDCBKが意見するというのは非常に難しいところでございます。UDCとしては長期的なスタンスをもって社会実験準備事業や学習事業を進めていく必要があると思っておりますが、短期的な件であっても出来るだけ魅力あるまちになるよう意見をさせていただけたらと考えておりますのでよろしくお願いたします。

3. 協議

【座長】

続きまして、次第の「3. 協議」でございます。資料3「産業界との連携強化について」、資料4「市（主に都市計画部）との連携強化について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料の説明）

【座長】

産業界との連携の現状報告と、市の都市計画部との連携を強化することにより施策へ反映をしていくということでした。委員の皆様から協議内容について、何か御意見等がありますか。

【G 委員】

アウトカムを見据えてやろうとされていることは分かりました。まず産業界との連携について、なんとなく共同で何かをやっていこうということは見えるのですが、それと都市計画がどうマッチングするのかよく分からないので質問します。企業が自社でやっていることを草津市に寄与するのは良いかもしれませんが、都市計画という意味でどういう関係があるのでしょうか。

それから提案です。これまで社会実験準備事業や学習事業をやってきて何かアウトプットがあったと思いますが、それが施策に反映ができなかった理由を詳細に解析した方がいいのではないかとということです。これまで市に提案して反映されなかったのは、アウトプットの内容が問題なのか、提案の内容が問題なのか、そもそもテーマが違ったのか、うまくいかなかった理由を詳細に解析された方がいいと思います。そうすると来年度、原部原課との調整もやりやすくなるのではないかと思います。

【事務局】

1点目の企業と都市計画との連携の意味ですが、例えばJRさんは鉄道だけではなくバスやBRTやLRTなど特にコロナ禍で未来的な交通体系も意識されているので、そういったところで連携することによって長期的な視点に立った都市計画を考えていくのに必要と考えています。今すぐの都市計画には関係しないかもしれませんが、10年、20年後の未来を描くことによって都市計画に対する働きかけができるのではないかと考えています。

また、しっかりと分析解析して市の施策へ反映させるという御提案についてですが、なかなか原部原課からの事業への参画が少ないため、施策に反映できないという形になっているのではないかと感じております。原部原課の課題となっていることをテーマにすることによって参画しやすくなると思うので、次年度以降はそのような形で進めていこうと思っております。おっしゃっていただいた通り分析解析をしっかりと、より施策へ反映できる方法を考えていきたいと思っております。

【G 委員】

連携している企業が市の都市計画課に、どのようにアーバンデザインに参画できるか提案してもらえるように持っていてもいいのではないかと思います。

それから分析解析の件ですが、提示いただいている資料がざっくりしすぎていて抽象的に概念化されるので、なんとなく納得はしやすいのですが、もう少し逐一で見ていった方がいいと思います。例えば提案内容が煮詰まっていけないのであれば、スクールでのワークショップの在り方を考え直した方がいいだろうし、もう少し細かい分析をされたらどうかと思った次第です。

【B 委員】

1 点目について、交通事業者との連携は絶対不可欠です。アーバンデザインセンターの都市計画のミッションは南草津の交通とは切り離せないなので、連携はしなくてはならないと思います。交通以外でも、例えばUDCK 柏の葉では、健康産業や食の産業等も道や広場といったまちづくりに関係しているので連携をしています。先ほど事務局から長期的な話とありましたが、産業界は近々にお金になるような話でないと乗ってこないで、短期的な話も含めて連携していかないといけないと思います。

【副座長】

視察報告の内容で質問です。視察先では企業との連携はどのようなものがありましたか。

【事務局】

UDCK、柏は三井不動産がもともと創設時から関わりがあるということで、人員体制も三井から出向されているなど人的な連携をされています。UDCO、大宮は企業との連携はあまりなく、どちらかというとうDCBKと似て市や大学との連携が強いです。商店街と事業のやり取りがあって、そういった連携はあります。

【H 委員】

私はだいぶ前に、20年後のまちづくりについて阿部先生のワークショップに参加しました。市民の立場として中長期的視点で南草津のまちを考えるとということには分かっているのですが、小さなことでもいいから確実にその時の市民の声を拾っていただいて、その種を育てていくフォローをUDCBKにはしてもらいたいと思っています。一つでいいから目に見える形で残すということが次の市民への積み上げになると思いますので、そういった短期の取り組みもお願いしたいです。

それから、南草津は近辺に大学、企業、病院などが集まっていることが一番の魅力だと思っています。今この場にはたくさんの専門家の方がおられます。そのような方々が市民に近づくようなワークショップのような形で先ほどのような御意見を聞かせていただく場があるといいなと思いました。

最後に、中長期ばかりだと結果を見るのがなくなってしまいそうなので、もうそろそろ南草津の狭い範囲で現実的にできることを実際に行動してやったらいいのではないかと思います。よろしくお願いします。

【事務局】

目に見える形でというのは非常に大事なことでと思っています。例えば市民の皆様が

社会実験に参加されて駅前オープンテラスを並べたとして、それが定着すればまちを形成していく第一歩になると思っています。UDCBKの役割として小さな成功体験を積み重ねていくこと、小さなアクションから大きな変化にしていくことが大切だと考えております。なかなか目に見える形で実現するのは大変ですが、中長期ばかりにとらわれずにやっていきたいと思っています。

また、本日お集まりの先生方にはいつも大変参考になる御意見を頂いております。スクールやセミナーを含めいろんな企画に御参加いただきたいと思っています。

最後の件ですが、市民の皆様にも事業に参画いただきまして、一つ一つの小さなことから形にできるよう成功体験を積み上げていけたらと考えております。

【I 委員】

UDCBKからいろいろ施策提案をしていると思うのですが、それを市の中で実施する時に各課が個々に動いていても意味がないと思います。提案から実施までを包括的にどこがまとめるのか、舵取りをするところが必要ではないかと思いますが、どうですか。

【事務局】

市の組織上、UDCBKは総合政策部にあります。その中でUDCBKの目指すところが都市デザイン、都市形成、都市計画に関わることで都市計画部の内容であるけれども主に企画を担当する総合政策部に所属しているということで、指揮命令、管轄が二つに分かれてしまっているためうまく事業が進んでいない面もあります。これを一つに統一して南草津を中心としたまちづくりを考えるということは重要であると考えておりますので、今後も課題として見据えて取り組んでいきたいと思っています。

【E 委員】

都市計画の提案や施策反映というのはとても大変なことだと思いますが、UDCBKの強みは大学や市民とつながっていることだと思います。そこに力を入れて市民を味方につければ施策は通っていくと思います。そこでスクールの目的が地域のコミュニケーターを育成することなので、都市デザインのコミュニケーターを委嘱したらどうかと思いました。アーバンデザインセンターの職員だけでは大変な面もあると思うので、事業をコーディネートする等、スクールを受講したやる気のある方に動いていただける制度を検討していただけたらと思います。

【事務局】

コミュニケーターの育成ということで人材育成を一つの目的に掲げていますが、これまで育成の面はうまくできていなかったように感じています。コミュニケーターとして委嘱してUDCBKの職員以外でもまちづくりについて考えられる方々を育てるとい

うことは良い展開になっていくと思いますので、委嘱するかどうかはまだ何とも言えませんが、そういった展開を目指していく方向で事業を進めていきたいと思っております。

4. 閉会

【座長】

委員の皆様には御質問や具体的な御提案をいくつも頂きました。今年度の事業を進めていくと同時に来年度のUDCBKの事業をどのように進めていくかということについて、協議をさせていただきました。委員の皆様からは多角的な視点、具体的な目に見える成果について御意見を頂きました。次年度の計画を策定する時の参考にさせていただきたいと思っております。これで全ての議事は終了いたします。それでは事務局へ返します。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただき、貴重な御意見ありがとうございました。本日いただきました御意見を今後のUDCBKの運営および事業展開に反映してまいりますので、引き続きお力添えくださいますようお願い申し上げます。それでは本日の運営懇話会を閉会させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。